

「新産業を生む科学技術」選考講評

選考委員長 長田 義仁

科学・技術にはこれまでにない新しい価値を創出し豊かで多様性ある社会を実現する力があります。AI、ICT、ロボティクス、ゲノム編集がこれまで不可能とされていた技術課題を次々に克服し、現代社会を大きく変革しているのはご承知のとおりです。同時にそれらが人類の幸せをもたらすよう正しく使われるための倫理の確立がつよく求められております。

本プログラムは旧来の枠を超えた自由な発想によって、世の中になかった独創的・革新的な科学と技術をあらたに生み出し、人々の生活を豊かにする新産業を創出して社会にイノベーションをもたらす研究を助成することを目的としています。第17回目の募集となる今回も多くのお応募を頂きました。今年も生命科学、材料、デバイス、情報通信、環境、エネルギー、食糧など非常に幅広い分野から興味深い提案を数多く頂きました。選考委員会として深く感謝申し上げます。

これらの提案は様々な分野からなる深い学識と経験豊かな選考委員13名によって丁寧に、そして慎重に審査されました。事前に、分野、年齢、性別、地域、所属機関などの配慮をしないことを確認したうえで、自由な発想に基づく創造性ある構想か、先駆的で高いレベルの研究か、新産業を生み出し豊かな社会を実現する構想か、また既存の枠を超えて社会が求める新しい学問領域を切り開く内容か、といったことを重要な視点として審査しました。選考委員は、提案書に基づく1次審査、申請者のプレゼンも交えた2次審査を通じ、活発にそしてオープンに議論を重ね、最終的に10名（女性は1名）の提案を採択いたしました。医薬、生命科学、材料、情報、食糧、環境などいずれも現代社会が抱える喫緊の課題に果敢に挑戦する、

あるいはそれを先取りする提案を選ぶことができたと選考委員一同は考えております。新しい視点からの発想や社会実装をより意識した提案があったことも特徴でしょう。

研究は極めて個人的で孤独な作業なので精神的・肉体的負担も大きいのが常です。そのことを考慮し、キャノン財団は随時研究者を訪問して研究者の立場に立って相談にのっております。また研究推進途上で予期せぬ問題が生まれれば選考委員を交えて親身に相談にのる態勢をつくっているのも本財団の特徴です。これまでに本財団で助成を受けた研究者の多くは、その後日本の最先端科学を担う立派な研究者として活躍しております。今回めでたく採択された研究者の皆さんは、この栄えある機会を大いに活用して、失敗を恐れず自信をもって自ら描いた構想の実現を大胆に目指して欲しいと審査員一同願っております。